

特別史跡加曽利貝塚の「発掘調査現地説明会」を開催します！
～令和6年度の発掘調査の成果を解説します～

千葉市では、特別史跡加曽利貝塚で実施している令和6年度の発掘調査成果を解説する「発掘調査現地説明会」を開催しますので、お知らせします。

1 趣旨

千葉市では、特別史跡加曽利貝塚のさらなる解明に向け、令和5年度から第3期調査として、57年ぶりにもなる北貝塚の本格的な発掘調査を実施しています。

このたび、今年9月から実施している発掘調査（第3期調査2カ年目）の調査成果を説明します。

2 日時

令和6年11月30日（土）10：00～15：00

以下の時間帯（30分／回）に分け解説を行います。（各回定員45人）

①10：00 ②10：30 ③11：00 ④11：30 ⑤13：00
⑥13：30 ⑦14：00 ⑧14：30

※荒天中止。中止の場合は11月29日（金）16：00までに加曽利貝塚博物館ホームページでお知らせします。

【URL】 <https://www.city.chiba.jp/kasori/>



3 会場

特別史跡加曽利貝塚（若葉区桜木8-33-1）

＜アクセス＞千葉モノレール桜木駅または京成バス桜木町バス停下車、徒歩約15分

4 参加方法

当日受け付け（事前申し込み不要）

5 見どころ

（1）縄文時代後期の柱穴群と遺物集中地点

令和5年度調査では、調査区西側の約250平方メートルについて、遺構確認面までの掘削を実施したところ、整理箱28箱分の遺物が出土したほか、土坑278基を検出しました。土坑の多くは、径20センチ程度の平面円形をしており、20～50センチの深さがあります。形態的特徴と分布から縄文時代後期の住居跡に伴う柱穴群と考えられます。令和6年度調査では、隣接する調査区東側で掘削を継続しています。遺物の出土量は調査区西側よりも多く、縄文時代後期の遺物が集中して出土しました。

(2) 縄文時代中期の小竪穴群

令和5年度調査の結果、後期の遺構群が調査区の広範囲にわたって確認できました。今年度の調査では、さらに下層にある縄文時代中期の遺構を確認するため、調査区北壁に幅5センチのサブトレンチ（試掘溝）を設定して調査を行っています。サブトレンチからは縄文時代中期の土坑や小竪穴が検出され、調査区東側（堤状貝層付近）ほど遺構の分布密度が高くなっている様子がわかります。

(3) 堤状貝層の堆積状況

貝層の分布範囲と時期、堆積状況を確認するため、調査区北壁に設定したサブトレンチを堤状貝層にまで延長して調査を行っています。イボキサゴを主体とする貝層は、小さなハマグリを多く含むことから縄文時代中期の所産と考えられます。ただし、出土遺物には中期から後期の土器が含まれており、今後も詳細な調査を継続する必要があります。



今年度の発掘調査の様子



昨年度の現地説明会の様子

6 報道機関向け現地レクチャーの開催

(1) 日時

令和6年11月28日（木）14：00から

(2) 取材申込

現地でのレクチャーに参加を希望される方は、11月28日（木）10：00までに文化財課（電話245-5960）へ事前にご連絡ください。

※レクチャー当日は、加曽利貝塚博物館正面入口にお越しください。